

まちづくり市民懇話会

とことん懇話会

TOPICS

第18回目は、皆さんの住む地域や参加するまちづくり団体での対話の状況や課題について共有するとともに、地域でどのような場や対話の仕組みがあればよいか、意見交換しました。

オンラインで開催!



とことん1

到達目標 地域での対話の状況や課題などについて知りました

地域での対話の状況や課題などについて、以下の2つの視点から出された意見を全体で共有し、意見交換しました。

【視点①】あなたの住む地域や、あなたが参加するまちづくりの団体では、様々な人が集って話をする場や機会はありますか？

【参加されている組織・団体】

地縁型：町会、地区市民協議会、婦人会、祭礼団体、地域助け合いふれあいサポート団体、社宅の集まり
テーマ型：「食・物・人」を繋ぐマーケットの活動団体、一般社団法人 岸和田シニアプロジェクト推進協議会、岸和田市図書館友の会

【意見のまとめ】

- 意見交換の頻度については、テーマ型の集まりでは定期的に実施しているケースが多く、月に1回程度が多い。
- 課題解決や取組の工夫については、アンケートによるニーズの吸上げ、地域に必要とされる（参加したいと思える）取組の実施、口コミ等による組織活動への理解などが挙げられている。
- 資金面については、地縁型の集まりでは、会費や助成金が主となる。テーマ型の集まりでは、会費・助成金もあるが、活動に賛同する企業からの協賛などもある。
- 活動に参加されていない方からの意見としては、参加の機会の創出、資金の使い道の透明性などが求められている。

【視点②】「一人ひとりが課題意識を持って動くことが継続的に起こり得るまち」となるためには、どのような場や協働の仕組みがあればよいと思いますか？

【意見のまとめ】

- 問題意識・課題意識を持った人が集まれる仕組みづくりや、人に自分の意見を聞いてもらえる、かじり合った場ではなく気軽に話せる「場づくり」が必要
- 一人ひとりができる立場で関わり、新しくチャレンジする人をサポートする体制があり、失敗やチャレンジを許容できる場が必要
- 企業など多様な主体を巻き込んだり、活動を継続・拡大していくためには、活動に参加するインセンティブ、win-winになれる関係づくりが必要
- まずは小さなことからスタートし、成功事例をつくること。行政が支援し、その行動を積み重ねていくことで、最終的には市民同士で行動していくような仕組みづくりにつながる。

【各主体の立場・取組】

【市民】

- ・課題意識を持ち続ける
- ・考えた意見を発表し、仲間を集めて行動する等

【地域団体】

- ・議論・コミュニケーションする場をつくる
- ・SNS等で積極的に情報発信する等

【企業】

- ・活動への参加、アイデア、ノウハウの提供
- ・win-winな環境を整える等

【行政】

- ・きっかけとなる場を提供（プラットフォーム機能）
- ・補助金や制度面での補助等

【中間支援組織】

- ・中立的な立場で聞く、アドバイスする
- ・各主体が取り組む仕組みを構築等

■ 開催概要

第18回：令和3年 11月14日（日）
 場 所：オンライン+市役所（臨時オンライン会場）
 参 加 者：市 民：現地オンライン 3名 オンライン 11名
 若手職員：現地オンライン 5名
 桃山学院大学：学生3名
 議 題：1. 地域での対話の状況や課題などについて
 2. 意見の異なる多様な市民が協働して取組を進めるためには

とことん2

到達目標 意見の異なる多様な市民がいる中で、合意形成を図りながら、みんなでまちづくりを進めるためには、どのような場や協働の仕組みがあればよいか考えましょう

まずは、市内の地域の取組事例を事務局から紹介し、また、その中で、参加している市民の方からも自分の地域の取組を紹介していただきました。その後、取組の紹介や前半での地域の活動内容の現状を受けて、今抱えている課題に対して、今後どのように取り組んでいくのがよいかについて、グループに分かれて議論しました。（以下、議論内容を一部抜粋）

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
どんな場が必要？	地区でのタウンミーティングの実施や公民館まつりを活用するなど、多様な情報が交わる場	参加しやすい環境で、多世代間でのコミュニケーションの場	様々な立場・幅広い年齢の人たちが、ゆるい繋がりをもってなんでも話せる場	校区ごと連合町会ごとに、まちづくりについての分科会等をつくる
目的を明確化するには？	組織の取組（課題認識）が実情にあっているか、検証（取組の棚卸）が必要	目的を細分化し、年代ごとの課題や興味に対応した部会をつくることによって、若い世代の参加促進につなげる	自分の町で問題になっていることなど、地域の現状を多くの人に知ってもらう	行政からの話題提供
「つながり・支えあい」ってどうやってつくる？	各主体の足りないものを補う（ジョイントする）仕組みが必要	まずは見学からでもいいので参加してもらい、目的や活動を知ってもらう	—	交流会等での意見をちゃんと拾って、場を変えて議論する
どのように行動する？取組をどうやって動かすか？	他の地区での取り組み・他の組織との連携などにつなげる仕組みが必要	—	これからまちをつくっていく世代の人が参加できる・参加したくなるような仕組みづくり	—

とことん3

懇話会後の参加市民・若手職員からの感想です



市民

- ・ 今後の課題、若い世代にどう関心を持ってもらい参加できるような環境づくりを行えばよいか等、今後の活動に繋がる議論ができました。
- ・ まちづくりについて今は特に意識を持っていない市民の方にも、まちづくりを考える輪に入ってもらうには、どう進めたらいいかも考えていきたいです。
- ・ 最初は「子育て」等、自分事として考えられるテーマで集まり、自己中心的な行動・動機が実は地域のためになっている、という流れになればよいなと思いました。 など



若手職員

■ 今後の予定

今後は、これまでの議論を踏まえ、より具体的な行動に移していけるよう協働の仕組みや取り組み方等についての議論を重ね、それら意見を基本計画等へ反映していきます。

【第19回】 令和3年 11月 28日（日） ➡ 協働の視点を持ち、アクションについて考える

【第20回】 令和3年 12月 12日（日） ➡ 基本計画素案について整理

お問い合わせ：岸和田市役所 総合政策部企画課 政策担当 （tel. 072-423-9492）